

高校公民プリント（過去問類似）

源流思想と宗教 No.4

名前

得点

/10

問1 16世紀のドイツにおいて、ローマ・カトリック教会の制度的な権威や贖宥状（免罪符）の販売を批判し、人間は善行などの外的行為ではなく、神の恵みに対する内面的な信仰のみによって義とされるという「信仰義認説」を唱えて宗教改革を開始した人物は誰か。 （2026年 全国公立入試 類似）

1. ツヴィングリ 2. ノックス 3. カルヴァン 4. ルター

問2 「ただ生きるのではなく、よく生きること」を重視し、国家から不当な死刑判決を受けた際にも、脱獄という手段で国家に報復することは自らの魂を傷つける不正な行為であるとして拒絶し、法に従って刑死した、古代アテネの哲学者は誰か。 （2016年 全国公立入試 類似）

1. ピタゴラス 2. プラトン 3. ソクラテス 4. エピクロス

問3 春秋戦国時代の諸子百家の一派で、儒家が説く家族愛などの差別的な愛を批判し、自他を区別せずにすべての人を平等に愛し、互いに利益をもたらさ合うべきであると主張した思想家は誰か。 （2012年 全国公立入試 類似）

1. 墨子 2. 莊子 3. 老子 4. 孟子

問4 初期キリスト教において「異邦人の使徒」と呼ばれ、地中海世界への伝道に尽力した人物である。彼は、キリストへの信仰によってすべての人が義とされると主張し、キリストを信じる者の間では、ユダヤ人とギリシア人、奴隷と自由人、男性と女性といった社会的な区別を超えて、皆が神の子として平等に一つであると説いた。この人物は誰か。 （2023年 全国公立入試 類似）

1. マタイ 2. ペテロ 3. ヨハネ 4. パウロ

問5 イエスは、神への愛と隣人愛を説き、その具体的な実践のあり方として「自分にしてもらいたいと思うことは何でも、あなた方もそのように人々に対してしなさい」と教えた。このキリスト教における倫理的指針を何というか。 （2016年 全国公立入試 類似）

1. 黄金律 2. 隣人愛 3. 予定説 4. 原罪説

問6 万物を支配する理性（ロゴス）に従い、情念に惑わされない不動の心（アパテイア）を保つことによって、自然と調和した「よき生」を実現しようとした、ゼノンを祖とするヘレニズム期の哲学学派は何か。 （2016年 全国公立入試 類似）

1. ピュロン派 2. エピクロス派 3. キュニコス派 4. ストア派

問7 ブッダが説いた初期仏教において、人生の苦しみの根本原因は、自己や世界の真実のあり方を知らないことにあるとされる。この苦しみを克服するために、自己を恒常不変の実体として捉える執着を捨て、自己を含むすべての存在が変化してやまないものであると正しく認識する思想を何というか。 （2012年 全国公立入試 類似）

1. 涅槃 2. 無我 3. 無常 4. 縁起

問8 ポリスの崩壊に伴い個人の生き方が模索されたヘレニズム期において、肉体的な苦痛や精神的な不安のない魂の平穏な状態を幸福とし、公的な活動から退いて「隠れて生きよ」と説いた思想家として最も適当な人物を答えよ。 （2021年 全国公立入試 類似）

1. ピュロン 2. エピクロス 3. セネカ 4. ゼノン

問9 古代ギリシアの哲学者の思想に関する記述として、著作『パイドロス』の中で、書かれた言葉は固定化されて自立的な思考力を奪う危険があるのに対し、生きた対話を通じて魂に植え付けられる言葉こそが、真の知識を育て、思考を深める力になると説いた人物は誰か。 （2015年 全国公立入試 類似）

1. プラトン 2. ゼノン 3. ピュロン 4. タレス

問10 13世紀の西欧中世において、トマス・アクィナスはキリスト教神学の体系化を試みた。その際、イスラーム世界を経由してヨーロッパに再導入され、彼の「信仰と理性の調和」という思想に決定的な影響を与えた古代ギリシアの哲学者は誰か。 （2024年 全国公立入試 類似）

1. エンペドクレス 2. アナクサゴラス 3. アリストテレス 4. ヘラクレイトス

答え合わせ・解説 No.4

| | | |
|-----|-----------------|---|
| 問1 | 答え 4 ルター | ローマ・カトリック教会が提示する贖宥状の購入といった外面的・制度的な行為による救済を否定し、聖書の言葉に基づく個人の内面的な信仰を重視した。この思想は、個人の生き方や価値観に根本的な変革をもたらし、近代的な個人主義の成立にも大きな影響を与えた。 |
| 問2 | 答え 3 ソクラテス | 「ただ生きるのではなく、よく生きる」ことを説き、魂の配慮を重視した。不当な判決に対しても、脱獄という不正で応じることは自らの魂を汚す悪であると考え、国家の法に従って刑を受け入れた。この態度は、弟子のプラトンが著した『クリトン』などの対話篇に描かれている。 |
| 問3 | 答え 1 墨子 | 儒家の仁（家族愛などの段階的・差別的な愛）を「別愛」として批判し、自他を区別しない無差別の愛である「兼愛」と、互いに利益を融通し合う「交利」を説いたのは墨子である。彼はまた、戦争を否定する「非攻」や、正義を望む天の意志に従うことを主張した。 |
| 問4 | 答え 4 パウロ | パウロは、イエスの死と復活を信じることによるのみ人は義とされるという「信仰義認」を唱え、ユダヤ律法の遵守に縛られない異邦人への伝道を推し進めた。彼は『ガラテヤの信徒への手紙』などの書簡において、キリストへの信仰のもとでは、民族や身分、性別による差別はなく、すべての信徒が平等に神の子として一体であると説いた。 |
| 問5 | 答え 1 黄金律 | イエスは、律法の形式的な遵守を重視するファリサイ派などを批判し、内面的な神への愛と隣人愛の重要性を説いた。その隣人愛の具体的な実践の基準として示されたのが、「自分が他者からしてほしいと望むことを、そのまま他者に対しても行いなさい」という教えであり、これは後に「黄金律」と呼ばれるようになった。これに対し、自分が望まないことを他者に行わないという消極的な倫理（論語の「己の欲せざる所、人に施すこと勿れ」など）は「銀律」と呼ばれることがある。 |
| 問6 | 答え 4 ストア派 | ゼノンによって創始されたストア派は、宇宙の理法であるロゴスに従って生きることを重視した。情念（パトス）に支配されない「アパテイア」の状態を理想とし、世界市民（コスモポリタン）としての平等を説いた。 |
| 問7 | 答え 2 無我 | ブッダは、人生の苦しみの根本原因を、自己や世界の真実のあり方を知らない「無明」にあるとした。自分という存在は恒常不変の実体（我）ではなく、移り変わる要素の集まりであることを正しく認識することで、執着から離れ、苦を消滅させることができると説いた。この、固定不変の自己は存在しないという思想を「無我」と呼ぶ。 |
| 問8 | 答え 2 エピクロス | ポリス社会が崩壊し、個人の心の安らぎが求められたヘレニズム期において、肉体的な苦痛や精神的な不安のない平穏な状態（アタラクシア）を追求したのがエピクロスである。彼は政治的な喧騒を避け、友人たちと「エピクロスの園」と呼ばれる庭園で共同生活を送り、「隠れて生きよ」と説いた。これに対し、理性を重視し情念の克服（アパテイア）を説いたのはゼノンである。 |
| 問9 | 答え 1 プラトン | 『パイドロス』において、文字（書かれた言葉）の限界を指摘し、対話（問答法）の重要性を説いたのはプラトンである。彼は師であるソクラテスの対話の姿勢を継承し、固定化された文字よりも、生きた対話を通じて魂に真理を植え付けることこそが真の知恵（フィロソフィア）への道であると考えた。 |
| 問10 | 答え 3 アリストテレス | トマス・アクィナスがスコラ哲学を大成するにあたり、大きな役割を果たしたのがアリストテレス哲学である。当時、十字軍運動などを通じてイスラーム世界からアリストテレスの著作がラテン語に翻訳されて西欧に再流入し、キリスト教の信仰と理性的な哲学をいかに調和させるかが大きな課題となった。 |